

田平隆行, 田中寛之 編
Evidence Based で考える
認知症リハビリテーション

澤田辰徳 (東京工科大学医療保健学部作業療法学科)

本書はわが国の認知症作業療法領域を牽引する研究者である田平隆行氏, 田中寛之氏を編者に迎えた良書である。編者らの認知症リハビリテーションに対する熱意が本書の節々に感じられる。

本書の特筆すべき点は大きく2点あると考える。

第一に, 認知症のリハビリテーションについて国内外の多くの知見をもとに論述している点である。本書に記載があるように, 認知症に対するリハビリテーションはこれまで主としてBPSDに対する非薬物療法として行われてきた。しかし, 現場におけるその実践の効果は懐疑的にみられることも少なくなく, 私自身もそう感じていた。本書の最大の貢献は, タイトルが示すとおり, “Evidence Based”の観点から, 科学的に有用な認知症のリハビリテーションについて記載されていることにあると思う。システムティックレビューやメタアナリシスにとどまらず, 時にはケーススタディに至るまで, 最新の知見を踏まえて構築されており, その構成は革新的といえる。さらに, 単なる有用な評価やアプローチ法を羅列するのみならず, 科学的にエビデンスが構築されていない分野に対しても言及されているため, 臨床実践者だけでなく研究者においても有用な書といえるだろう。

特筆すべき点の2つ目として, 認知症のリハビリテーションについて包括的に解説している点が挙げ

られる。認知症の種別における症状はもちろんのこと, 重症度に合わせた評価やアプローチについても詳述されており, その対象は認知症患者本人だけでなく家族や環境にまで及ぶ, リハビリテーションアプローチの範疇も広く, 昔から知られている回想法などの認知刺激療法や音楽療法から, Simulated Presence Therapy や栄養指導に至るまで多岐にわたる。これらは若手の実践者のみならず熟練者においても活用できるだろう。

また, 具体的な事例が紹介されているのも大事な点である。私は過去の指導経験から, 学術論文から臨床実践を考えること, つまりエビデンスを実践に結びつけるには具体的事案や体験が必要であり, 初学者の多くはそれが無いために壁にぶつかることが多いものと感じている。本書は最新の知見をベースにしながらも, 事例の紹介をとおして具体的な方法をしっかりと明示している。このことにより, 臨床実践者が壁を乗り越えて理解を深め, 実践していくことを促進できるものと思う。

本書は編者らが狙う「研究と臨床の架け橋」として十二分の書籍となっており, 認知症リハビリテーションに取り組む実践者および研究者や学生に手にとってほしいと切に願う。

(B5・頁312 2019年 定価: 本体4,200円+税 [ISBN978-4-260-03923-9] 医学書院刊)